



# 発達障害って何だろう？ Part2

---

2019.2.9

福井大学 子どものこころの発達研究センター  
福井大学医学部附属病院 子どものこころ診療部

藤岡徹





- 自己紹介
- 前回のおさらい(発達障害について)
- 事例の前に
- 事例
- 最後に





# 発達障害ってなんだろう??



- 生まれつきの特性の結果、日常生活や社会生活、学業に困難が生じている状態のこと
- **しつけや関わり方により生じるものではない**
- 周りの人が関わり方(声かけの仕方など)を変えたり、支援・配慮をすること、本人が自分の特徴を理解して対応することで、困難を目立たなくさせることはできる





# 発達障害にふくまれる**主な**障害

- 自閉スペクトラム症
- 注意欠如多動症 (ADHD)
- 限局性学習症
- 発達性協調運動症
- 知的能力障害





# 自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder; ASD)

## • 対人関係の問題 → マイペース

→相手の顔や目を見ない

→他者への関心が低い時がある

→関わりが一方的

→言葉やジェスチャーの使い方/理解が独特

→会話が広がらない

→想像することが苦手(そこに無いものを考えたり、  
他者の立場に立ったり、省略された言葉を補うのが苦手)

→状況に合わせた行動(暗黙の了解の理解)が苦手





# 自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder; ASD)

- **こだわり → 融通が利かなくて独特**
  - 同じ手順を好む(変化が嫌い)
  - 同じ行動をしたり同じことを言う
  - 好きなもの(時には独特なもの)に非常に興味を示す
  - 柔軟に考えたり行動するのが苦手
- **感覚の問題(敏感さと鈍感さが同時に存在)**
  - ある特定の音・匂い・感触(・味)に鈍感または敏感に反応しすぎる
  - ものを、独特な見方をする(すごく近くから見たり、など)





# 注意欠如多動症

(Attention Deficit Hyperactivity Disorder; ADHD)

- **注意力の問題: 注意散漫と過集中が同時に存在**
  - 忘れ物が多い/忘れっぽい
  - 物を無くす/片付けられない
  - ケアレスミスが多い
  - 計画性に乏しい/計画を立てても守れない
  - 気が散りやすい(指示を聞き落す)
  - 頑張る必要があることに取り組めない
  - 過度に集中しすぎる





# 注意欠如多動症

(Attention Deficit Hyperactivity Disorder; ADHD)

- **多動性の問題:じっとできない**

- 落ち着きがない(常に動いている)

- 授業中に立ち歩く

- しゃべりすぎる

- 頭の中で常に何か考えている

- **衝動性の問題:待てない**

- 待つことが苦手(順番が待てない)

- 質問に出し抜けに答える

- 邪魔をする

- (→本当ではないことを言ってしまう)







# 限局性学習症(学習障害)

(Specific Learning Disorders; SLD)

- 読み・書き・計算を、**スムーズかつ正確にする**のが難しい  
→ 全くできないわけではない、というところがポイント
- 「勉強ができない＝学習障害」ではない
- 重要なのは、情報を取り入れて、  
自分で考えて、それを表現すること  
→ 読み書き、自筆での計算に  
こだわらなくてもよい





# 重要だけどあまり言われたいこと

- 自閉スペクトラム症・注意欠如多動症をはじめとした発達障害の特徴は、みんなが持っている
- 診断はその特徴で困っている時になされる  
⇒ 専門家からの「**みんな**で支援していきましょう」の合図である
- 「医療につながったらOK」ではない  
→ むしろ、家庭や地域(学校など)での対応が重要  
→ 処方是不安定なベースを整えるもので、  
環境調整(過ごしやすい状況を作ること)は必須





# 強弱があるなら、どこから障害なの？



このへんは？  
障害なの？



↑  
特性があまりない

↑  
特性が強い

- 明確な線を引くことはできません
- なぜなら、環境(状況、一緒にいる人、求められていること)によって、困難が生じるかどうかが変わってくるため  
→ 困難が小さければ「障害」という診断は必要ない  
(支援や配慮は必要かもしれないけど)





# ASD(・ADHD)対応の基本

## ①視覚提示＝見える化

- イラストにしたり、文字にしたりして、“見せる“
- 口頭指示は覚えておく必要があるが、視覚指示は残り続ける
- これから実施すること(スケジュール)の視覚提示も重要

## ②省略せず、理由やすべきことを具体的に伝える(暗黙の了解の明確化)

- ×(食事のあとに)「そこ、適当にふいといて」
- ○「次の人が気持ちよく使うために、机の上を台拭きで2回拭いて」

## ③話をよく聞く(そして本人と一緒に対応策を考える)

- 行動には必ず理由があるので、それを“最後まで”聞く





# ADHD(・ASD)対応の基本

## ①注意を向けてもらう/向けてもらいやすくする

- 注意がそれやすいので、名前を呼んだり、近くに行ってから話す
- 注意がそれる余計なものを目に入らないようにする

## ②指示を出して動いてもらう、休憩を入れる

- じっとしていたり、興味のない作業をし続けるのは苦手なので、途中でちょっとした休憩やリフレッシュを

## ③ご褒美の設定

- 「〇〇したら△△」とご褒美を設定する





# SLD対応の基本

## 読み書きについて

- ①語彙と文法を身につける
- ②ひらがなの定着→ぱっと見てわかる語句を増やす
- ③漢字は「語呂合わせ」や「漢字パズル」で(反復練習以外の方法も)
- ④読み書きしやすい工夫(文節で分ける、読み仮名、文字やマスが大きくなる)
- ⑤(支援)機器やアプリを使いこなす
- ⑥英語は、楽しく丁寧に音と文字をつなげていく

## 計算について

- ①日常生活に結びつけながら(経験から学ぶ)
- ②計算しやすい工夫
- ③(支援)機器やアプリを使いこなす





# 気になる行動への対応

---

行動は

- ①行動の前のできごと
- ②行動
- ③行動の後のできごと

- この3つが1セットになっている。





# 専門家の実施していること

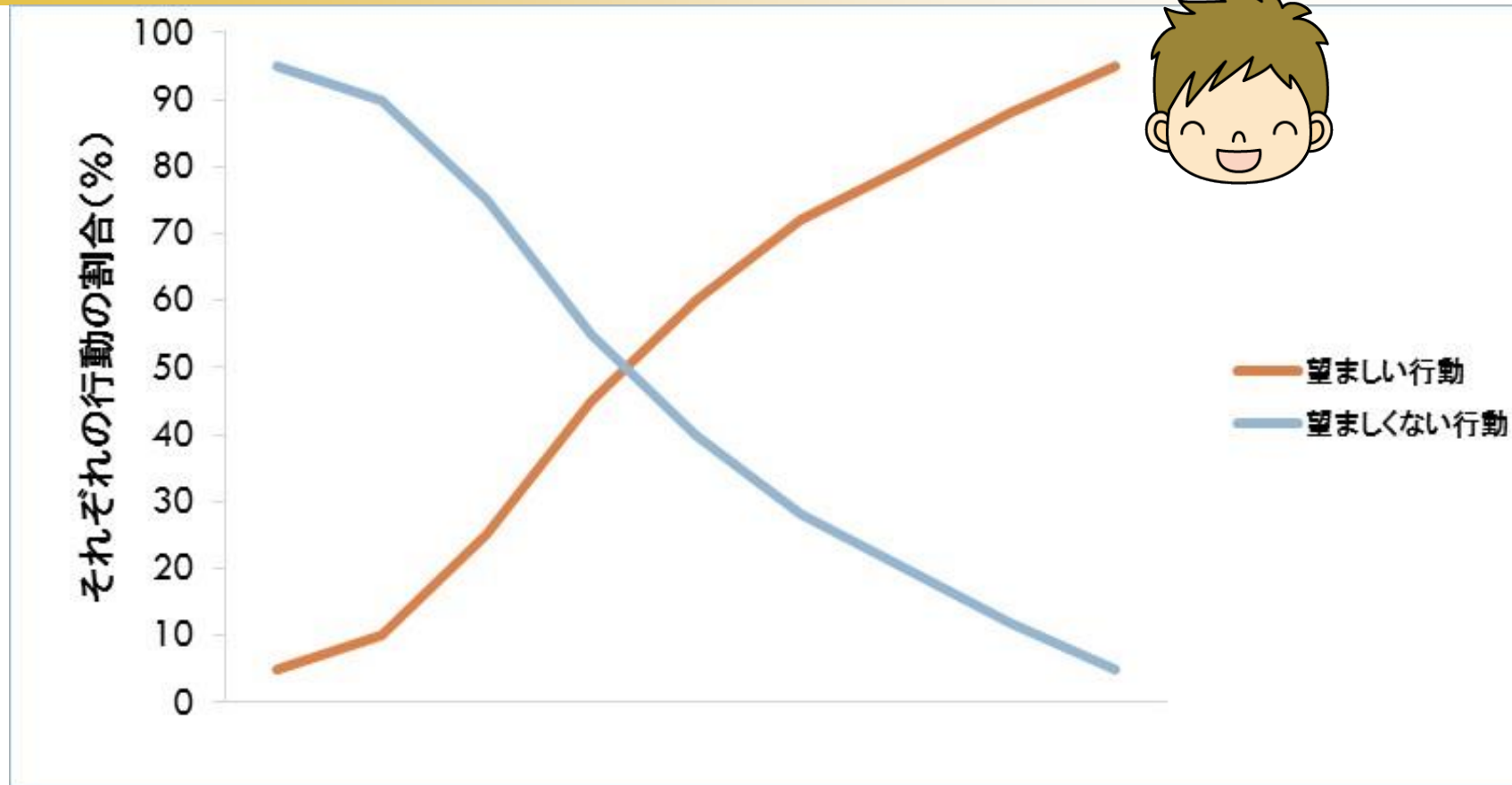
- 望ましい行動が起こりやすくする
- 気になる行動が起こりにくいようにする
  - ①「行動の前のできごと」を変える
- 望ましい行動/良いところをほめる
  - ③「行動の後のできごと」を変える
  - 望ましい行動の割合を増やして、  
気になる行動の割合を減らす







## ほめることについて



重要

- 望ましい行動が増えると、望ましくない行動は自然と減っていきます





## よくあるQ&A

---

Q 発達障害の子が分かりやすい教え方を教えてください

A「発達障害の子にピンポイントで分かりやすい教え方」は  
ありません

発達障害特性のある子の分かりやすい方法は、  
みんなにとって分かりやすい方法です





- 自己紹介
- 前回のおさらい(発達障害について)
- 事例の前に
- 事例
- 最後に





## ほめることの重要性

### 子どもにとって、ほめることは重要

→ほめる＝何が適切な行動かを教えること

→発達障害（特にASD）の特性がある子は、  
相手の意図を推測するのが苦手

→怒られて行動を止められたとしても、  
自分が何を求められてるか推測するのが苦手





## ほめるのが難しいとき

- ①「ありがとう」「たすかった」「うれしい」という
  - お茶碗をさげてくれたら「ありがとう」「たすかった」「うれしい」
  - 係の仕事をしてくれたら「ありがとう」「たすかった」「うれしい」
  
- ②やっている(言っている)ことを口に出して言う
  - 宿題をしているときに「宿題してるんだね」
  - 「花の絵を描いた」言ったときに「花の絵を描いたんだね」
  
- ③何も言わずに(3分間)話を聞くでも
  
- ④一緒に遊ぶ(大人が童心に戻って心から楽しむ)

認められている、承認されている、自分の行動はこれでいいんだ、  
楽しいと思ってもらうだけでも十分効果がある





## よくあるQ&A

---

Q 厳しくしないと、子どもは成長しないし、精神的にも強くなれないから、怒らないとだめでは？

A 成長に不可欠な負荷を与えることは、怒ることではありません。「怒ることは、精神的成長に必要なこと」ではありません。計画的に、冷静に、心身の成長に必要な負荷を必要なだけかけるのは良いと思います。周囲の大人はモチベーターとしても役割が重要です。





## よくあるQ&A

---

Q 今、厳しくしておかないと社会に出てから困る。  
とても厳しい人は世の中にいっぱいいる。  
だから厳しくするんだ。

A とても厳しい人がいっぱいいることが、変なのでは??  
たとえば、そのような人がいたとしても、  
そこを避ければいだけだし...





- 自己紹介
- 前回のおさらい(発達障害について)
- 事例の前に
- **事例**
- 最後に







# 重要なこと

---

- 気になる行動が同じでも、なぜそのような行動をしてしまうのか、で支援や配慮の方法が異なる
- なんでその行動をするのだろうか？と考えるのが重要  
(なんでその行動が継続するのだろうか、も重要です)
- 「こうすればできる」という方法を探す





# 忘れ物をする

---

- 忘れにくくなる工夫してみる  
ひとまとめにしたり、置き場所を変えてみたりする
  
- 工夫しても難しい場合もある。  
「誰かに聞く」など、誰かに頼ることも重要なスキル  
(大人は、他人にけっこう頼っていますよね…)





# 会話の順番が分かりにくい

暗黙の了解の明確化(暗黙の了解の説明)

- 「(みんなが発言するために、一人の)発表は長くしすぎない」という暗黙のルールを明示した

見えないものを見ようとして

- 見えない「話始め」と「話し終わり」をマイクを持ってもらうことで見えるようにした

ほめることで定着化

- 適切な行動をしたら先生にほめてもらうことで、その行動を定着化。





# 言われたことを真に受けてしまう

- 暗黙の了解の明確化(暗黙の了解の説明)  
「理想」ではなく、実際にどうしたら良いのかを伝える

×「クラス全員と仲良くしましょう」

○「他の人とケンカしないようにしましょう」

○「全員と友達になる必要はありません。

気が合わない人もいます。

その人たちとはあまり関わらないようにして

叩いたり蹴ったりしないようにしましょう」





# ルールや規則に厳格

- 暗黙の了解の明確化(暗黙の了解の説明)

「言わなくてもコレくらい分かるだろう」ではなく、しっかりとルールを説明する

ほめることで定着化

- 適切な行動をしたらほめてもらうことで、その行動を定着化。

- 特性は「生かす」

ルールや規則に厳格、と言うのであれば、

どうしてほしいかをルールとして設定すればいい

→ただし、応用は利くように。。。。





# 感覚過敏（大きな音が苦手）

---

- 感覚過敏が強いと、日常生活をおくるだけで、非常に疲れる
- 自分でどうこうできるものではない（と考えるといい）  
→合理的な配慮が必要
- “参加”の仕方はいろいろと考えることができる  
（表舞台に立つだけが“参加”ではない）
- この参加の仕方を考えることも、合理的配慮の一つ





# 予定の変更が苦手？





- 視覚提示＝見える化  
口頭指示は覚えておく必要があるが、視覚指示は残り続ける  
これから実施すること(スケジュール)の視覚提示も重要
- 困ったら、基本に立ち返る  
特に診断がある場合は、「このくらい、きっとできるだろうな」  
「この子なら、これは必要ないか」と思っても、実施する  
→「動ける」と「動きやすい」は別物





# スケジュールを使うときの注意

- スケジュール、嫌なことの羅列になっていませんか？
- スケジュールをこなしたら、「良いことがある」というようなものにする、取り組みやすくなります
- イラストでも文字でも、本人が分かれば、どちらでもOK

すること	
1	 しゅくだい
2	 じかんわり
3	 おかあさんに いう
4	 おやつ





# 授業中にボーっとしてしまう

- 注意を向けてもらう

長時間100%集中力を保ち続けることができる人はいない  
重要なときに集中してくれればいい、と考える  
もしくは聞き逃しても後から自分で振り返れるようにする

「授業中にずっと集中し続ける」

「みんなと仲良くする」など

大人でも無理なことは、子どもに求めてはいけない





# じっとするのが苦手

---

- 暗黙の了解の明確化(暗黙の了解の説明)  
目に見えない「足を置く位置」を明示した
  
- 指示を出して“動いて”もらう  
何もせず待つ(〇分座り続ける)ということは、苦手  
→であれば、何かをしてもらえばいい  
→この場合は、座って本を読んでもらう
  
- 「こうすればできる!!」という方法を探す





# 同じことを継続するのが難しい

- 指示を出して動いてもらう、休憩を入れる  
じっとするのが苦手ならば、長時間じっとしてもらおうとしない

不適切な行動とは、「期待されていない行動」「同意を得ていない」という点が前提になる

「動きたい(動いてリフレッシュしたい)」という動機であれば、こちらが指示を出して、期待された行動を取ってもらえばいい  
→そしたら、ほめるチャンス!!





# ゲームをはじめ、さまざまな約束

---

- 事前に約束する
- 約束は守る
- 一度決めた約束は、同意なしに変えない  
→修正が必要な場合は、同意を得てから修正する

※なかなかモチベーションが向かない子に対して、  
登校や宿題を含めて適切な行動をしたら、  
適切なお褒美(金銭含む)を設定するのも問題ない





# 読み書きが苦手

- 読み書きができることは重要
- →ですが、文字は、あくまでも、  
「情報を仕入れて、相手に伝えるための道具」の一つ
- →この学習では、何が重要なのかを考えて、  
それが達成できればよい、と考える
  
- 頼れるところは、読み上げ機能、代読、キーボード入力、  
音声入りに頼っても良いと思っています。





「読み」や「書き」に困難さがある  
児童生徒に対する  
アセスメント・指導・支援パッケージ



→ 第1版 ←



福井県特別支援教育センター



- 読み書きについて
- 特別支援教育センターのHPからダウンロード可能です。

<http://www.fukuisec.ed.jp/>





- 自己紹介
- 前回のおさらい(発達障害について)
- 事例の前に
- 事例
- 最後に





# もしも、大きく困る事があったら

## 保護者の方

- 通学する学校や園の先生(担任の先生、特別支援の先生など)
- スクールカウンセラー、保育カウンセラー
- 特別支援学校の先生
- 教育関連施設(福井県教育総合研究所、特別支援教育センター)
- 市町村関連(福井市では障害福祉課、総合福祉相談所、保健センターなど)
- 児童相談所に相談(子どものこと全般を相談できます)
- (色々試してみて専門機関を受診しようかな、と思ったら)専門医療機関

### 主に診断後

- 発達障害者支援センター(スクラム福井)、障害者職業センター、地域の児童発達支援センター・相談支援事業所







# もしも、大きく困る事があったら

## 教職員の方

- 特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、保育カウンセラーに相談
- 保護者に相談  
しっかりと信頼関係を築いてから、  
「こういうところで気になるけど、家ではどうですか？」などと情報を共有  
→必要に応じて、保護者を經由して、関係機関に情報を提供
- 福井県教育総合研究所、特別支援教育センターに相談

## 地域の指導者の方

- 保護者に相談(詳細は上に同じ)





- 発達障害の特性は、強弱はあるにしろ、世の中の人全員が持っている特性の一つ
- その特性を、長所として活用できるよう状況（少なくとも困らない状況）を周囲が整えていく  
→「十人十色」「みんな違ってみんないい」を心の底から自然に考えられる社会

